

第20回土木施工管理技術論文報告審査結果

論文報告合わせて134編の応募があり、応募要領を満たしていた124編（論文40編、報告84件）を受理いたしました。「技術論文審査委員会」に於いて厳正なる審査が行われ、以下のとおり決定いたしました。

表彰式は5月27日(金)アルカディア市ヶ谷で行われ、最優秀論文賞受賞の石川俊哉様には審査委員長である池内技監より表彰状と賞金の授与が行われました。



《第20回土木施工管理技術論文・技術報告受賞一覧》

賞	題名	執筆者名	会社名	技士会
技術論文	最優秀	アスファルト舗装クラック補修方法の工夫 石川 俊哉 小林 房昭	(株)玉川組	(一社)北海道
	優秀	旧橋撤去工事における組立台船工法を採用した工期短縮と環境対策について 清水 克浩 岡田 大作	(株)谷垣組	兵庫県
		箱根西麓・三島大吊橋（三島スカイウォーク）の建設 長尾 悠太郎 田口 吉彦・田中 寛泰	川田工業(株)	日本橋梁
	特別	鋼・コンクリート合成床版のひび割れ抵抗性の管理方法 神頭 峰磯 和田 昌浩・千葉 徳光	日本車輛製造(株)	日本橋梁
技術報告	最優秀	地元企業活動に配慮しながら工程短縮を図るラケット型鋼製橋脚工事の工事計画と施工 立石 篤志 宮永 満・岩崙 健治	エム・エムブリッジ(株)	日本橋梁
		重要文化財橋梁の長寿命化工事 村中 大助	三井造船鉄構エンジニアリング(株)	日本橋梁
	優秀	トンネル掘削工期の短縮で早期供用を実現 榊原 高範 小野 純一・森川 真治	(株)大本組	岡山県
		SD工法とスカイステーション併用による施工計画 西村 幸雄	(株)大森工務所	
		新工法による最終処分場の遮水シート品質向上・施工性改善計画 木谷 自伸	西松建設(株)	東京
		沖縄特有のサンゴ塊を含む浚渫土砂の空気圧送による揚土について 大和久 靖雄 井上 善三・金田 裕治	あおみ建設(株)	東京
	特別	袋詰め根固め工法によるニューマチックケーソンの仮設 桑名 辰典 松本 竜哉・植田 伸一郎	(株)大本組	岡山県
		GPS+GLONASSによるハイブリッド測位 佐藤 豊明	日新興業(株)	宮崎県
	帰還困難区域内に位置する羽黒川橋の施工について 林 基樹 山内 桂良・近藤 俊行	(株)IHIインフラシステム	日本橋梁	

*IT賞は該当なし

第20回技術論文審査委員会・幹事会 名簿 (2016年5月17日現在)

委員長	坪香 伸	一般財団法人日本建設情報総合センター 理事	小澤 康彦	関東地方整備局 東京港湾事務所長
池内委員	幸司 技監		森 望	国立研究開発法人土木研究所 研究調整監
大脇委員	崇 国土交通省大臣官房 技術総括審議官	阿部 悟 (幹事長)	片山 昭	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 特別研究主幹
池田委員	豊人 国土交通省大臣官房 技術審議官	牧角 修	十河 茂幸	広島工業大学工学部 環境土木工学科 教授
魚本委員	健人 国立研究開発法人土木研究所 理事長	長内 勝彦	宮川 勇二	一般財団法人日本建設情報総合センター 経営企画部長
清宮委員	理 早稲田大学創造理工学部教授	中須賀 淳	猪熊 明	(一社)全国土木施工管理技士会 連合会 専務理事
栗山委員	善昭 国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 理事 港湾空港技術研究所長	西川 昌宏		
				関東地方整備局 荒川下流河川事務所長
				関東地方整備局 東京国道事務所長

第20回 土木施工管理技術論文 審査講評

技術論文審査委員長 池内幸司



土木施工管理技士会の皆さま方には、平素より国土交通行政の推進にあたり、まさに現場でご尽力賜っておりますことを心より御礼申し上げます。

技士会連合会より、技術論文の審査依頼があり、委員の皆さまとともに審査致しましたので、講評を述べさせていただきます。

最優秀論文には石川俊哉さんと小林房昭さんによる「アスファルト舗装クラック補修方法の工夫」を選定致しました。

本論文は、幹線道路のクラックやわだちの補修についてのものです。従来 of 工法では、短期間の内にクラックが発生する恐れがある現場において、橋梁継手の1つである「埋設ジョイント」の仕組みを応用することで、補修から3年が経過しても健全な路面を維持しており、高い評価を受けたものです。

優秀論文3編のうち、清水克浩さんらの「旧橋撤去工事における組立台船工法を採用した工期短縮と環境対策について」は、工事の工程管理について、工夫されたものです。通常、仮橋を仮設しクレーンを設置するところを、工期が非常に厳しいことから、クレーン台船による施工を実施されております。また、台船は通常海から搬入するところを分割し陸送する組立台船を用いることで工期を短縮されたことが、評価を受けたものです。

長尾悠太郎さんらの「箱根西麓・三島スカイウォークの建設」は、主径間長400mを有する国内最大級の人道吊橋の施工に関するものです。風の影響が厳しい現場条件において、風洞実験・大変形解析を実施し、主塔設置位置を決めるなど、工夫が凝らされております。また、施工後の橋において振動試験を実施し、耐風安定性を確認されていることなども評価

されたものです。

神頭峰磯さんらの「鋼・コンクリート合成床版のひび割れ抵抗性の管理方法」は、合成床版の品質管理についてのものです。膨張剤の添加量を定量的に評価し、適切な使用量を決定することで、コンクリートのひび割れ抵抗性を改善し、品質向上させたことが評価されたものです。

「報告」の最優秀賞は2編を選定しました。

村中大助さんの「重要文化財橋梁の長寿命化工事」は、歴史的価値を有する橋梁の耐震補強工事に関する報告です。外観の変化を最小限にとどめながら補強工事を実施されている点が、評価されたものです。

榊原高範さんらの「トンネル掘削工期の短縮で早期供用を実現」は、大断面トンネルの工程管理についての報告です。機械を改造し削孔ロッドの付け替えを不要とすることで、削孔時間を約2割削減し、工期の大幅な短縮を実現したことが評価されたものです。

本日表彰される論文・報告は、いずれも施工管理技士の方々の、日頃の現場での工程管理や品質管理などに関する研鑽の結果が高く評価されたものです。

今回、入賞を惜しくも逃された論文・報告の中にも、他の現場で参考になる点が数多くあると考えております。連合会ではすべての論文・報告をHPで公開すると聞いておりますので、今後もこれらを活用して、各現場において技術力の向上に努めて頂ければ幸いです。

結びに、施工管理技士の皆さま方が、引き続き現場において研鑽に励まれ、ご活躍することを祈念し講評とさせていただきます。